

2 中高連携英語力向上 第2年次の歩み

(1) 岐阜市立陽南中学校における実践

< 授業実践 >

授業実践に向けての構え

「共に学び合う中で実践的コミュニケーション能力をはぐくむ学習指導」を研究テーマとし、身に付けた態度・技能・知識を適切に活用して自己表現することができる生徒の育成をめざした。そのために次の3点を重点とした。

指導計画の工夫

- ・3年間を見通し、系統立てて付けたい力を明確にした指導計画の作成
- ・個への指導の手立てを明確にした単位時間ごとの指導計画の作成

指導方法の工夫

- ・生徒が意欲的に学習に向かう課題設定・課題提示の工夫
- ・TT や少人数指導を生かした、生徒の学習状況の適切な把握と個に応じた指導の在り方の工夫

学習環境の充実

- ・生徒の学習への関心や意欲を高め、英語の力を付ける教材や情報の提示
- ・外国人講師の活用

また、中高連携による研究の立場から、「表現活動を支える読み取り活動や聞き取り活動の工夫改善」という視点を大切に、理解領域の指導はどうあるべきかを授業を通して探った。

第1回授業交流研究会

【期日】 平成18年7月14日(金)

【公開授業】

- ・単元名 New Horizon English Course 2 Unit 3 E-Pals in Asia
- ・授業学校・学年 陽南中学校 2年
- ・主な提案内容

メールの形式やメールでよく使われる慣用表現がわかり、伝えたい内容を慣用表現を用いながら順序立てて書くことができるようになることをねらった。そのために、見本となるメール文を黒板で示し、それをもとにして、どんな内容の文が必要なのか、どんな順序で書くとよいのかを丁寧に確認する場面を設定した。

また、導入で示したメール文についても、内容を理解するうえでポイントとなる語句を口頭で確認するとともに、黒板に示されたメール文中の語句に対応するように、英文の横に単語カードを貼って確実に書かれた内容を理解できるよう工夫した。

【授業研究会】

- ・授業開始時に位置付けられている帯活動的な生徒主体の学習は参考になった。
- ・疑問点を生徒が自主的に解決しようとする姿が見られ、主体的な学習につながっていた。
- ・書く内容が思い浮かばない生徒や、どのように書くとよいのかがわからない生徒のために、例文やフレームなどが準備されているとさらによかった。
- ・メールを書く活動において、キーワードとなる語句を板書したり、生徒とともに音読したりすることは、自己表現する力を付けることにつながっていくと考えられる。
- ・英文を読み、内容を理解させる際には、意図的指名などにより、全員が理解できているかどうかの確認が必要である。また、それぞれの学習過程において、生徒がどのような意識をもっているのかを十分に把握しながら指導を進めることが大切である。

第2回授業交流研究会

【期日】 平成18年11月6日(月)

【公開授業】

- ・単元名 New Horizon English Course 1 Unit 7 カナダの学校
- ・授業学校・学年 陽南中学校 1年
- ・主な提案内容

自分が調べた「留学に最適な中学校」について対話する活動を通して、メモを見ながら、お互いにもっている中学校の情報を正しく伝え合えるようになることをねらった。そのために、一回目の対話活動を行った後、振り返りの時間をとり、より正しく伝えるためには何を改善しなければならないのかを明らかにし、小集団に分かれて焦点をしぼって練習したうえで、二回目の対話活動に取り組むという指導過程を組んだ。

また、導入時のJTEとALTによるモデル対話において、数字などの正しく伝えるべき大切な情報を強調して話すようにした。話し方のモデルを示すことに加え、強調された部分に特に留意して英語を聞くと、よりよく理解できるという聞き方の指導も行おうと考えた。

【授業研究会】

- ・ワークシートや外国の学校の写真・地図などの準備が非常によくされていた。このことは、生徒の学習意欲を高めたり、一人一人に力を付けることにつながっていた。
- ・JTEとALTが役割をもって指導にあたっていた。生徒の願いを達成させるために設けられたコース別の学習はとても有効であった。
- ・聞き手・読み手としての力を付けることは、同時に話し手・書き手の力を付けることにつながっていくといえる。正しい情報交換ができるためには、聞き取った情報を相手に確認する場も必要であり、教師のモデルを通して意図的に示していくとよい。コース別の指導は、一人一人の発話量を増やし、個に応じた指導をするためには有効である。本時のねらいに関わって一人一人の学習状況を把握し、確実に見届け、評価をしていきたい。

<グローバルスタンダードによる英語力分析調査>

【期日】 平成18年8月7日(木)

【受験者】 スターターズ...23名 ムーバーズ...20名

【結果分析】

昨年度と比較すると、2年生においてリーディングとライティングが+0.1ポイント、3年生においてリスニングが+0.3ポイントという結果であった。昨年度の反省から、生徒のリスニングの力をさらに伸ばしていくために、普段の授業の中で教師自身が積極的に英語を活用してコミュニケーションを図るようにし、言語の使用場面や言語の働きをできるだけ自然な形で生徒がつかむことができるよう、授業改善を行った成果であると考えられる。

<学習環境の充実>

昨年度に引き続き、「週刊ST」を購読している。生徒は英語の物語や映画の記事に非常に関心を示し、英語学習への意欲を高めることや異文化理解を深めるのに役立っている。さらに、

今年度は、リスニングとスピーチのビデオ教材を購入し、教科書を越えた、幅広いジャンルの英語に触れることができるようにした。このビデオ教材は、選択英語の授業で活用している。

2月には、英会話学校の講師を招き、3年生のすべての学級を対象に特別授業を実施した。授業はすべて英語で進められ、生徒は、中学校3年間の英語学習の成果を実感しながら、生き生きと学習に取り組むことができた。

< 成果と課題 >

生徒相互の学習や少人数でのコース別学習の位置付けを通して、より多くの生徒が英語を理解できるようになり、自己表現する力の育成につながっている。

ケンブリッジ英検の実施や積極的な外国人講師の活用を通して、より多くの生徒が自分自身の学習を深めたり、英語や英語圏の文化などへの関心を高めたりして行くことができた。

高等学校での英語学習を見通し、中学校3年間で付けたい力をさらに明確にしたい。また、リーディングやライティングを中心とする授業の在り方についても実践・検討を進めていく必要がある。